





黑田記



黑田記卷之三目錄

豊後之内河之入り兩城開渡事

附同國玖珠郡角半礼之後日田郡隈城開渡事

豊前國小倉表に發向之事

筑前國平均甲付筑後に進發之事

筑後柳川於城下福嶋與之花合戦

立花家代々々武勇之覺之彼矢一戦

黒田如水家康公為所目見上洛仕儀事

一同人筑前引養子切之復生之時之由殊務之由事

東叡山開山堂  
司職真如院十  
有四世蓮華金  
剛義嚴叔藏之

發事編羅和漢典籍  
津之文庫以報四恩  
後司職之人若有補  
遺時以聞焉義嚴記













中村氏後へお城之苗目の城毛利友比布秀包之苗目  
の侍後と云人の城也是亦明城多其堅固少押之是日金  
友山と云其家要害より北のそと中陣と云は法軍ハ  
皆中陣や相立花左近と云方より藤下柳川の城と云  
城と云福徳が城も大軍と云年柳川へ押合らる交之  
死を免るふさかると云て我々打負寔克の兵百餘  
多討せしむるの神を城申へ此入者り城の要害堅  
固なりと云里余程の城の所と打上田と作る所を  
二三町程と備添ふ城其堅固の目の城の橋とかけ  
往来は其橋と云之隣人も毛利に成を不るり加  
突ちを打らぬ其意も亦押法人丈大なる呼号城と裡へ

是よりくりはと云はれは水にけさかり鳴首尾  
能お相托衆の人数の打入候

一 福徳と云花と云我の根神の橋と云は候と云

某諸國流浪の身と云はれり彼西にも能細作る友家の流  
は流と云はれ示ありと云はれは後より誤り多きものなる  
能比と云なり流と云花左近國系よりなりと云事と云は  
福徳が城も大軍と云一 家康公は味方と云ふなりと云  
りれと云花と云はれし所はと云の事り能後柳川盡く奪向と云  
今流り極よ世交城多しと云小橋一筋けりしと云はれ大軍  
と云押道もなりと云はれお到るる老將なるはれはりり  
云我と云呼号十五以上と云六十歳と云ふはれ方人丈五万餘

五丁由板飯橋と義筋も渡り一方向とありと月町より五丁  
とあり人数とありと人せぬ板橋のひもありとありとありと  
板と煙とありとありとありとありとありとありとありとありと  
見とありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
老女とありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
板橋とありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
ありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
合とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
云の板もありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
りとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
ありとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと

一戦とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
やとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
以来の徳右とありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
かくとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
小柳和泉とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
或る人とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
市も一向とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
の申も一向とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
言とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
名とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと  
利根人とありとありとありとありとありとありとありとありとありとありとありと

柳成傳多しなりきと法人留りて此大岡家伝の大意  
宿ありて是より老や武後の和泉程夜にあらりて是も宿  
合ふりて是より終りて是よりか守り得りて是より是を仕お  
こりて是より武田の二番の柳に介れ世の人のあひひき別  
りて是より人成事と云ふりて是より是を仕おこりて是より  
世依の慣多しと云ふ河武後より是より柳より是より利根より押  
或者の仕せぬ老の中に入りて別ぬ是より是より是より是より  
けり柳より和泉組の老在り武田の是より是より是より是より  
之河組の老在り何ものも是より是より是より是より是より  
是より是より是より是より是より是より是より是より是より

人も是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
易きこと後と云ふは是より是より是より是より是より是より  
之河より是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
融陣とく打とりりるは是より是より是より是より是より是より  
和泉組の老は是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
首と推し是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
和泉組の老は是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
牙と嚙けられは是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
是より是より是より是より是より是より是より是より是より是より  
各り鬼組の由は是より是より是より是より是より是より是より是より是より

んせぬ鬼の首と可成と云ふんよりあれ程法山成歌の  
類有りとも先免給ぬ歌と云ひ返せの毎念すおのえも  
見此よりくのれぬぬるに神子戯云の返答るねの歌と云  
指よりより二三日と云和歌集子法山成歌集と云ふより  
此の日後お極ひ替ふよあきれよとの組の老女定てり  
よと云はれ給事り此の歌と云ふも一節のえきてあ  
りよりあより福徳に世にむおの粒けよ人足少し神世を  
足手の大粒後友た凍早由りて一板のお史後より一  
や月今以後おと云とお史と云はれと云ふ事より又  
と云ふ事人の怒と埋かたと云つてけのて後にお史中よ極と  
埋かた事人の法書おと云ふ歌と云ふ事よりお史を極極道

くきより悲ひの老女定てり後長今あより大勝ひとて  
あれよりあきの後より後長其の法山成歌と云ふ  
中二人の年寄た少淋一足の甲斐の老女と人足は極  
おたを二十餘人かひつと云と云は明方をと云ふ歌あり  
は前年の雨と云と云は神子と云は歌敷の陰より悲ひと  
毎一せの極より一能く云ふ振らよお史成歌お史打  
極急を極れと云と云は老女と云は老女と云は我の  
悲ひ出ると云事歌ありと云と云は神子と云は我の  
と小登保を神子と云は神子と云は我のと云と云は  
福徳の老女と云と云は北入歌と極極への別れたの切の  
歴々の老女人長と云と云は老女と云は老女と云は

ふそと降り二の仮揚より北入り是と云ふ所と云はれり  
討のうしと云ふのき返さよと云はれり是より居りては  
若た急揚と云ふと云ふれ我と云ふと云はれり人員一人死  
つ後たあまわけつる揚成り禮儀志と云ふ後り也と云はれり  
中よりおれ揚と云ふ若た急揚と云ふより揚と云ふは  
と云ふも同入流より頻りに押せり先より進み揚と云ふ  
若た急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
つ付と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
へ急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
炮らり口に火筒の炮を打ちあはせり放しけり  
浮矢の掃くは後友陣早急降り下急と云ふは急揚と云ふ

後器と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
きせぬと云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
下急と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
泉を大樽つは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
府よりけり退き北北尻と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
若た急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
揚揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
切揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
と切揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
院へ急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ  
和泉と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふは急揚と云ふ

り終は出し一なるものなりとていふに終りしとていふに最  
さうなり又幸しむるものなり先の強きとん後強やとひいん  
後六使の五使和泉後と立お別ぬ所いひの世に以移成  
可いといふとちあはれいふも是と申すなりとていふに終りし  
お終りと取極し一終りしとていふに終りしとていふに終りし  
けり馬車と持する者さかしくも出さる程と偏る者  
子母とていふに和泉の如きなりとていふに終りしとていふに  
中を去るつ組の左子母の如きなりとていふに終りしとていふに  
歌ありとていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
流りしとていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
之終りしとていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし

と負又いふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
了とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
中とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし

一 立花左近親以来終りしとていふに終りしとていふに終りし  
一 忠の命終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
付とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし  
とていふに終りしとていふに終りしとていふに終りし

あると申すは懐く公人と先立んとおりの非なりく皇志の爲すは  
とこし利根と能くせんめお後とて一にお事所の新と實事の内  
を賤りしとひをあささわり果敢の事新根よ人よ新テあり  
じよひをさるるのい主の徳失多すれ皆魚子揃りしとこの  
痛とておひひよりあをたれと申すは相我れを先老と  
は偶友と新徳源流より一人のあまも此事のかく成り  
つり知事根よりあをたれと申すは成りお後とて一と  
自他のお念はりしと皆貪欲より能くをたさるる事は  
有り出りものも妖畜類も劣るとして下先徳なりしと依り  
お事所の能く構や又一人の宜ひしと申すは人の徳なりしと  
お事所の代官相年をその法役人三人に對しは徳と申すは

おひ合らるるの爲すはあてり合らるる徳とては公此の  
此分ののしと徳りしと申すはあてり合らるる徳とては公此の  
大悪性人なりしと申すはあてり合らるる徳とては公此の  
人しと申すはあてり合らるる徳とては公此の  
お事所の法役人なりしと申すはあてり合らるる徳とては公此の  
為しと申すはあてり合らるる徳とては公此の  
おしと切迫則とて申すはあてり合らるる徳とては公此の  
一陽徳源陣と申すはあてり合らるる徳とては公此の  
は飛後友山と申すはあてり合らるる徳とては公此の  
世此神の念の合致しと花家の恙をとりと爲しとて入る  
てとてとて徳り自今以後は申すはあてり合らるる徳とては公此の





らるる毛利輝元令吾中納言及ハ甲別振以中略重切及ル  
其外流別ハ此後同玉園系及度の中忠告取方の中子振  
かここの度方の中卒常の振種了語了就夫因府公出巡り  
阪府と並方人管府公世と云天下静徳も振方と云元の  
中卒常止り成る具子被云と云と甲別振も何れも常者好  
如氷中々も云々も子振と立振も甲斐も若さ老と云る如く  
能く智恵もるさるもや天下分目の名義左振もと云中物  
と云る如くさる何れも成る永引と穿人もさるひと云せ方  
も今我も六年老れ何れを後の懸若さ老れ何れの方人  
もと侍も社人と引も老の役も今の方も天下治り  
も穿人の引も老れ何れも其と穿人も毎日守るひと云る

物も不引日中東一の太たしけと云ハ甲斐めよこの振何れも忠  
告もさる何れもあれと云り判もよ裏切と云せ又後さる  
家康も侍も何の益もさるさるさる少もさる事か上方治  
りたる上い及是非と云江機様もさる其氣中津川の機も  
引入公書向の穿人と云使もあつた後立日急の難事事やと  
家中もさるいゆと云

一 如氷ハ其後法くし子被指

甲斐及古今夜の忠告も後も付之増倍の由も増え二十六万石  
この事ハ何れも何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
何れも何れも何れも何れも何れも何れも何れも何れも  
斜振如氷ハ去比俄抱り人教略と云る此倒前詮候は



内府に及上りしより五分蔵前迄下りし松平河を越く高橋  
作左衛門長兵衛公今の西代法と云ふ流別は為とも能く其  
を有する人多く其を重んずる事少く大方は至るべきを  
此高橋公が生一編をいふも云ふ如く此在京下御天下流  
御より未流と云ふ能く此御心流く如く其流上を有する  
此公その事の様も世より教り易く推る如く天より  
と申す程に大事く候儀志儀不存醜山科狼首字  
治之介京進記在家もも軍人虎解多と云ふ是も如氷  
之際一室より人数由りて返りて大事の義あり此流  
此流悟入り事と云ふ如く此流密に云ふと伝ふ如氷  
此公の流言能く同流の家康の天下を奪ふんと云ふ流

数々五代迄流傳しつゝ其より又其後慶長迄押傳へ  
了と云ふに流合を味方より引入るる如く踏つて甲  
斐と云ふ門ありしことと立申す儀も播磨より此流也  
此此人数二万餘持りて其後五計福徳も其より其  
の人数も一万余ありて世人教ると以海陸二より其  
其より其人数と云ふ儀軍人た其集りて十万余ありて  
其後五計甲斐も西人と云ふ其の太極も其より其  
其より其流此流若く其より其後學と云ふ流事裁判は  
其より其家康も是も其より其流も其より其流も  
老年の上何の事も其より其流も其より其流も其  
其より其流も其より其流も其より其流も其より其

生中の安徳和とありし人安徳和後生一篇の叙をて居り  
某の何れ心何の業をてや後病とたとけは二心とてうをりれ  
とての事とてしる志ある志強ひておの魂と入へのこむれ  
と抱いた極みありしと府とて身とてうち誠とありし  
付極みなりし極言のあきれとて神とて鏡とてうをり  
りり極言の美見合云とてありし極言京伏見大板恵  
氣通とて在家とて宰人の極言相成出法度とておけり家  
康云は老中の内能事とて多知音の流内とて入魂の美  
とて能事とて如水とてしをゆと極言は像と能事國とてり一生  
中の業とは五十九業とて難らく病死とて  
一如水能事とて山とて流とての定とて通塞の辨とてて極言

中く世即老と成色と奇と味とて一音憂世と極切いとて  
百はと侍た能事とてお後知事とて老とておれ  
とて人合とてお指とて下とて言とて老とて人海とておれ  
とてを知事とて下とて言とてお指とて切事とて指中とて  
おれとて世書付とておれとて引渡り親の親事とておれとて  
能事とてお後遠省の流りりり安徳和極言とて付とて  
知事とておれとてお指とて人と抱持とておれとて益事とておれ  
の能事とておれとて能事とて能事とて人合とておれとておれ  
おれとて極言とて人合とておれとておれとておれとておれ  
成とておれとておれとておれとておれとておれとておれとて  
像那の月つや像とておれとておれとておれとておれとて

とて忠忠と云ふを身も通さず小倉日家の家と他せ  
小姓彼は侍方十人斗切りの者十人ありて指多町  
屋敷の明らりと家内町屋ありて羅之田子指多と建い  
る通塞の神社揚子んせり大宰府の天神伝作  
の也と云ふは如く云ふは彩山の奥子茶屋と云ふ  
を最教の伴歳の後子屋敷と云ふ一究竟の侍方十  
騎余を重家指多五騎少之より付ゆと云は小政の  
家の中よりんせ宰人指多宰府の町裏子町と云ふ高賣  
人子紗らりて常の賣買ありて後世伝指多付合力あり  
隠密ありてよりり知る侍者ありたり又馬買と云ふは  
浮山子木本と代西や交り指多山中之侍者たり木本

と代せ高賣と云ふ仕と云ふは山中子小倉と云け定番の大  
藤川の政何のものとも侍侍た指多ありて重又指多の町  
その邊にあさ池の廣さより飛来指多と云ふ所は重  
と云はせりきり指多の故も物も成りて指多の性遣  
能く侍方と云ふはよりり指多と云ふは我木河の侍方  
是非は指多次子と云ふは親の事ありて不能口能被任  
指多と云ふ指多子終りて小知と云ふ者又の宰人分の者た  
指多と云ふは老たお應子人馬指多と云ふは身も人も馬  
も指多と云ふは宗や町屋並に家と建いせ店と梅何成とも  
思ひ寄る物と云ふ人たりと云ふは指多と云ふは地はすこ也  
由意の切りて町人の少りと云ふは指多指多と云ふは宰人

信天不知神をいふ事や其の愛のしるし新田と云ふは徳長は道  
も重なる之を若夫と云ふ或いは山りての信もると云ふ其人の  
根ははるし人の入時何討くとも馬遠利と云ふはこれいふも  
怪におも別く若交りて或は討くとも根は手懸と信を常と  
いふとも不持逼塞一篇と云ふ若の申けりて信をいふ死を  
と云ふ

一 虚無僧りおの立花左近父希皆又云言さう取のしるし物  
信をいふは他法と云ふ

尾田家の事と信りては和尚の由云々ありし信りては又  
さうの事と云ふ虚無僧り其流浪の身なれは法王と云ふ  
より能業とも云ふ欠りては彼地の事とも信りては信

史を神の江の云々の根神ありしと云ふは信りては  
あんな手懸たれし信りては後玉大友威勢迄成九玉の  
内六國切徳信津斗大陽養子と云ふ日向と瑞合我云々  
ありしは後玉大友威勢より有る玉と云ふりけり信り  
瓶前玉秋月と云ふ仁の始り夜須郡も信りては御半能多  
神成りて大友威勢の信りては秋月も武威迄成り信り  
と云ふ能多郡板浪郡と云ふ物と云ふと追例之は能多  
元立花と云ふとも追退糟屋郡尾田郡とも信りては  
古来より地信もさう在りとも押領せしめし能多半國  
代取武威さめんも後玉威勢の境もさうと云ふ城と云ふは  
りの長尾鶴の本池田は箇所の城と信りては後國日田郡も

かひいさしと抄録しつねてち友安のぬき事とてい合弁田系  
の親廣と申せしとて代友より付大軍と信し日田郡に打出  
秋月並筑後玉の歌と押へ板を以銀雲といひ近年秋月は  
追倒しつらる揚は板とてとて歩む揚銀雲と信付之並那  
岩危の城と申是立花左近の父なり又戸次道雪といはる  
秋月より追散らる立花の詔とてとて立花道雪と信ふるを  
糟屋郡立花の城と申すは左近の父なり道雪年老  
男子あり女子一人あり銀雲の男子二人持りし兄の左近と  
舞宮子とて申すは左近の母なり二男の左近とてとて  
也銀雲中より此歌を辨死にせしとて幼少成りし月と冠  
を不是非た兄の左近とてとて申すは舞宮子とてとて板道雪の

いふ時雷火より足痛り歩む所より帯をたてしと  
紫式人七す斗の言田打の刀杖を傳の袂炮一挺三人斗の  
手杖授りて付しりもも薬を入長き刀斗のあ侍定流と  
名付百人のちよりたつま軍始むるも薬を以定流備苗  
あかき歌おとく成りれも手杖をて薬物のうちと叩き  
あかきとて自身音返とて立舟柏子と合せ薬とかき歌の  
志中へかき入杖のくくさきり手杖の柏子より進しとてと  
流えと打ひりしれはる老の歌子進北よりとてとてあかき  
面も手杖かき入りし薬とかきさる老の三人余の刀と拔え  
をんごかきさる老の老たも立舟の例の音返とてとて  
うきとてとてあかきとて御れはる勇士た我者として切切を

此程より所々陣とも欠破りたり軍慣先子追を事  
度しきとも中陣踏雲の道雪めりあらん限り日思歌  
よの後のんせりきとみ跡死をえせよ集と歌の中か  
入打控を命惜くは後北と眼と見出た  
かきとてり程も数夜の追追しし  
いしかくるりりりり道雪おまの老いし  
つぎしゆと云老き又世人常よりれ  
るまことそたりあもあはれ其人の科  
人志仕は無貴を也りし人ど頼る  
又小若追宿り子撫と仕給ぬらり  
る流哀我ホとと系ありし月相を  
逸お仕えんせり

名をあり極小部を去る處に月<sup>ワタヌキ</sup>互之處なる若き時初  
夜の軍に和印お終流人よと云を  
事よ追初面白くもや次中仕出  
流の目み七人の場敷の目注に於  
初も是も似る流多かある色結  
一夜二夜もあしき難定と覚  
軍とありかり老も後あ皆  
此夜の軍におくれりや魚にあり  
おくれりきなり何の事の中  
色とては程病有り事い  
此もも事有り可人おとれ  
無忽の働とて討死





其者のいささか南東の恥とすこゝに志守の泪と流しけり歌  
ハ秋月を人よる限飛舟の國とすこゝに麻生宗像を南後  
國よる早野延木星燈門位不言良山の元主紀安の玉  
よ流系松浦堂と娘とすこゝに小歌の教とすこゝに道言銀雲  
よ時ハ西或時ハ東入碧と歌ハ深なるありとすこゝに三郡  
糟屋郡席田郡早良郡代陰ハ秋月次方ハ長傲の  
御よる之とすこゝに道言或威逐日つとすこゝに成道言とすこゝに  
學本もろひぬらとすこゝに後飛後ハ働小野とすこゝに  
八十歳及及病死を伝きとすこゝに具是甲小具良丈夫と  
是也楠の中とすこゝに世とすこゝに世最後の玉とすこゝに世  
ありきとすこゝに世とすこゝに世今後後中野とすこゝに世

或道と心を作ある麻生今も此處へあり也

一 言橋銀雲或後道言ハ方ありとす勇士也若ありとす  
道言程度ハまろりとす也水智恵を公義方ハ道言  
よる橋りやとす也嫡子左近ハ道言治と建立花とす也  
二男ハ後ハ若年とすも引分宝満とす也城ハ並とす也  
ハ秋月ハ城進とすおとすも此のそと岩屋とす也城ハ籠とす也  
月と公我度とす也亥秋月討負強叶とす也橋津方ハ橋  
とす也若り橋津江並とす也此のそとを主とす也我力ハ友  
ハ代々の家歌や秋月及滅却とす也大友腕力の法のこゝ  
事とす也恨とす也合才橋津中務を捕とす也人数とす也  
係とす也揚中とす也先肥前國籠系上野ハ其比ハ秋月と



身以日と送り扱き其江形討とあり及と非取やとく  
次の期一時攻り青島一り城中の老を急とま一命  
と捨り合戦り其治津老を大と討り大勝入替  
く攻り其空勝て叶振もろく其城中の老を大形討き  
り銀雲ハ銀令不人成とも空船の合戦を味能は討死  
二作とあひ乞矢余とより揚徳江橋と討り其又大勝討  
侍子居る老のやろ一時能は腹を打て陣屋に火と  
掛は死骸と焼く事也いせいのやと毎月やと侍を歌り  
首ととせとせと銀雲と義とと討死とと其は老取とと  
其れ死骸と焼失ゆと其は老とと其は老將の事審り可  
侍の器とけととぬ拍と云も死而すと其は老とと其を矢余

より言橋銀雲は十二軍大友徳代の守と懸と頼ん為  
其今討死は能は並後代迄の侍志を中し語り傳へと  
言侍子揚徳江橋と討り矢行をぬいた刀と抜大勢の  
中へ入り入遊し其を我死に大形討り其は治津老を討  
合首と其拍の具とと其は老の引合と文一通を治津  
中勢及とと其は中勢とんせと拍とと其は中勢  
数度其是見界其は助言と其は子細はとと勿論私  
宿意とつとと其は恨なり又其はとも作なり後日  
の批判を神は頼る其は又其は公とと事とと其は文大  
友と其は宿と其は日來と訓と侍志と頼る其は中  
り其は中勢と流し其は例と其は勇士と其は世人と友と

せはいつ年公の目さふあふのあふり第の左様うらたふさ  
おいとりのうらたふと涙よむせし智のおの玉備りお中丸の  
焼流と掃除の付傍と佐長一葬後お形言と種とつさ  
中替自身焼香侍りり志と感の公の御さ玉るわ法率  
皆焼香に哀び銀雲娘の忠死の侍程の老のわやうり  
之表の御申もさなるのささくもく大果報の侍とさう  
中丸の老々るわあまうり其比本よりお別れたの歌に銀雲  
娘いつさうの成老うやうらたふと智のささくもく歌願と  
もつさひるわしお中替の銀雲中替も自分け状と流理傍  
うらたふ花の城へきり急返玉に在支夜たり秋月の  
うらたふ花宝満お城に銀雲の字を式人指しはさとも頃月

追落えやうらたふの宝満の目さやう夜最さく押あうり  
うらたふ四方岩をさう道一筋ささくも人さの御岩のささくを傳い  
上下はり馬うらたふささくわ成陰程うらたふしとる落しぬ  
はい桶も微塵にち砕へささくわ改り事程成えん及扱と  
掛さる大柱のうらたふ海系はる城と破さる侍大柱を娘の  
秋月うけえさう頻にちささくわいやく秋月の度さく無情家  
ささくわ薩戸の道は人ささくわささくわいさくわささくわ  
大岡様九列也退治以後は目見といささくわ見左邊一雨ささくわ  
並流後玉さく願銀一万石ささくわ于今子孫お續立花立様と  
中替中丸の指しお立花の城と改て中丸後流といさく  
為也秋月のせの左様お成る後明日返玉に在返玉はさくわ



事つらき心ははるばるの苦しき常子居る  
いかにしるべきはるばるの苦しき常子居る  
長秋成り列とんあふれは神やは中勢を捕まて武佐の事  
あふれ許歌の事も長し誠は智仁勇の三徳兼備の侍も可  
謂かゝる程に分ふ西海より海防利と事非し先年狂家  
出張は徳永の城と追從焼徳と陣とを如龍藏守澄  
大軍と率し押参たり後平勢ハ僅二三千平陸信ハ自  
國の事よりわが民とかり催之万余の事とすし  
の江坂とんあふるや我まもろくくを中勢と  
りて一人も石強う侍ととの事りり中勢も死  
死の難事と及べりし事も中勢事もせむ何事も  
死の難事と及べりし事も中勢事もせむ何事も

度は為洞の時々の貝次中我亦強中とありし事と先  
某に在りし夜に夜の際ととるは中勢も死  
ゆくりし夜に歌の人数之絶えんかありし事と先  
務の森戸と侍長より日出の比勢も漸をれし平陸信  
陣取はつらき事とやを刻限子息又七席十五  
うめらるる相具と雲の父の事と院中勢とを天陸  
武者振ひて友と事れとて心と帯のしと根息を以  
るの場とつらき事と結ひしと事と帯と根息を以  
男結ひ縛かゝらしと根息と事と帯と根息を以  
己せられ身も法若死に世帯我と事と帯と根息を以  
帯歌よきとられたるは徳津家と生れ合ふと事と帯の

英泉の意ともう収捕の室なるべし其の各々もさふと  
いふ大勢の敵もあつたも併降信を中陣へ南のふもとに  
斗の兵たいうも志川よりあつたも併降信を軍に使法先け  
の兵よりとりせ第一節射掛ると長刀と抜つた左  
たともみ見抜えうとあつた法軍勢も長刀とも持とい  
うも長さ刀中へ雷の落りてあつた切入りも先公敵の  
を中陣へあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
は降信別なる男もあつたも併降信もあつたも併降信  
の事つてもあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
う併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
とも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた

陣たより降信へ夜より川と北と追降信も大勢降信もあつた  
降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信  
首と切血刀は併降信もあつたも併降信もあつたも併降信  
夜より併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
あつたも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
くとも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
切つたも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
中勢と切つたも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信  
切つたも併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
た意友と併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた  
い兵より併降信もあつたも併降信もあつたも併降信もあつた



よく彼の方と打落し生捕せんとせよとてしりぬるは  
元来命と切切り老の心を悪友とせし事なきはあはれ處  
切なりとては負解きしに月を非神の首と切し勢  
友の首と勝のうしとせし事なきはあはれ處  
是れはもゆりし何事は生捕生殺と一目人々  
流しとてしりぬるはあはれ處  
後世成る事とてしりぬるはあはれ處  
中一信信の首とてしりぬるはあはれ處  
細うま付是もは信信の首とてしりぬるはあはれ處  
也相軍も事終りし陣変へぬり子息又七位とてしりぬるはあはれ處  
の幼まうは上帯とてしりぬるはあはれ處

上帯信の首とてしりぬるはあはれ處  
もんせりぬるはあはれ處  
の首入替根の事とてしりぬるはあはれ處  
より人々とてしりぬるはあはれ處  
去老人たの事とてしりぬるはあはれ處  
あはれ處とてしりぬるはあはれ處  
りぬるはあはれ處  
信信の首とてしりぬるはあはれ處  
責をたの事とてしりぬるはあはれ處  
取巻難道に付十九一生の合戦とてしりぬるはあはれ處  
りぬるはあはれ處









能城下十町余の町と申す時幸徳寺にて急成長す板といふ  
くろ鬼神も通より一に別なりと物の種と云ふ人も廣原成  
以後と申すたふひかきと云ふも通はらぬと云ふ一板といふ  
社と云ふ可也多用私と云ふも一使と云ふ派又私路といふを  
いふ批判道雪具負の老多ありりね方と云ふ若くは  
相籠竿と法元社と事終使老出私の相音板と云ふ立花の  
城と至銀雲の城と是耶の月と一宿は又夜の内と出多ね新  
月と能内長老町と申すも物と云ふはの〜と申すより又より有本  
と申す町と申す能後といふの激と云ふかち後りける激なね難  
な〜といふと戦後す有ね新月と城と云ふは里半や城といふ  
石を傳へた其比の事云人た知りなき並常ある百姓は軍陣と  
いふ

人の入時中時申す一石伝時代より此老大在りり各道客  
其人より通はら付た〜と云ふ事の内〜と申集りあ後と云ふは  
戦なり及言の太勢といふ事と云ふ是成老と云ふ申すもあち  
〜と云ふきりねと云ふ負もつ〜と云ふ馬もあひを〜と云ふ見例の子  
樂と云ふ先と云ふ傳と云ふ〜と云ふ先と云ふ老大追拂法  
〜と云ふ〜と云ふ自他と云ふ〜と云ふ〜と云ふ〜と云ふ  
新月と城と云ふ種と云ふ〜と云ふ門伝新と城下十町半の町と云ふ  
子及〜と云ふ又付〜と云ふひ事〜と云ふおの教〜と云ふは神控追拂と  
付〜と云ふ半信跡と云ふ野陣と云ふ〜と云ふ〜と云ふせ板といふ事  
馬と云ふ〜と云ふ田系何〜と云ふ面法は田族等と云ふ家と云ふ面目  
手等〜と云ふ老の字と云ふ申す也と云ふ後〜と云ふ申す也と云ふ新也と云ふ

許之被系上西礼中上及もあてた某代は任る方々の中歌大  
カとたす之存是之義我代友と申出見才の中事とて  
之の由形柳と申拜といひ一筆子も存り也具子とて礼  
次の日子天馬と申出打節の位可城妙見といへとの責  
為法軍勢打立先主之彼城のありとを打立つ位可  
あつくと通つるぬた城とて被攻あせさの河中を  
よ人あめりあよむ付とふと移りて後後川河紙符  
る候ふとて誠多彼地の老長前方相友あせられん合  
敷のうけあめり候り候る程おと事候味方候馳馬り  
りり馬本より田系子信地いり老長やりの格勢とて合  
戦とは進うとて進う術とて百斗とて歌候十三里とて心許

よ進うに直ぐとて今老とては伐採せし又も味方より直ぐ  
者一人もあつ事一或士真かのつよと侍候は人の軍神志  
常持湯ひありの法人具をいへありとて未だ候り  
とせしき候あつとていひ候り候り候り候り候り候り  
もつとてとて其は事とて進う候り候り候り候り候り  
とては旗竿とて進うとて進うとて進うとて進うとて進う  
此老長候り候り候り候り候り候り候り候り候り候り  
馬本へあつとて進うとて進うとて進うとて進うとて進う  
合とて進うとて進うとて進うとて進うとて進うとて進う  
は事とて進うとて進うとて進うとて進うとて進うとて進う  
人の中りた人候り候り候り候り候り候り候り候り候り

成りて其の事も其の如く之程の御しに渡りて其の事も  
くも打負ひ候も念志候なり一篇よおられ候も去連の笑  
止りて道言通本へおられ候人よと笑ひて引合へ候候候  
考へん事候なり其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
無名語り候なり其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
と其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
くも其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も



黒田記 卷之三

其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も  
其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も其の如く其の事も



